



2008～2009年度
国際ロータリーのテーマ

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2760
国際ロータリー第2760地区ガバナー 片山主水

地区報 2008～2009

08年度(平成20年度) ロータリー愛知81

新世代のための月間

奉仕の理想

9月

2008年9月1日

目次

写真【彼岸花】	東尾張分区名古屋城北RC	①
活動	……	②
催し	……	④
同好会	……	④
親睦	……	⑥
私とロータリー	……	⑦
俳句・川柳	……	⑧
善語座右	……	⑨
「点鐘三点」片山主水	……	⑨
「雨後閑詠」瀧本守	……	⑩
投稿募集要項	……	⑩



【表紙写真／手筒花火】 撮影 東三河分区豊橋RC 中山 宏一

豊橋の夏の風物詩、豊橋祇園祭で奉納される手筒花火は当地方を代表する伝統民族行事です。火の粉を浴びながら仁王立ちとなり、人と花火とが一体となった花火打上げは他に例を見ない豪快な花火です。



目次

活動……………②

催し……………④

同好会……………④

親睦……………⑥

私とロータリー……………⑦

俳句・川柳……………⑧

善語座右……………⑧

「点钟三点」片山主水……………⑨

「雨後閑詠」瀧本守……………⑩

投稿募集要項……………⑩

お詫びと訂正

2008年8月号縦組7ページ、名古屋RC 山本祥二様からの投稿「ロータリー雑感」で、山本様の肩書きが、編集室の手違いにより、会長となっております。正しくは、副会長です。お詫びして、訂正させていただきます。



【彼岸花】 撮影 東尾張分区 名古屋城北RC 太田 達夫
 季節に敏感な花で、お彼岸に咲く花とされていますが、温暖化の影響か最近はややく咲きます。



活動

●一宮中央RC(西尾張分区)

クラブの奉仕活動

一宮中央ロータリークラブでは、大森進会長の号令の下、新世代委員会の松岡正浩委員長が中心になり「ロータリーカップサッカー大会—N一宮」と名を打ち頑張っております。9月23日に開催される為、この投稿が載る頃には終わっているかもしれませんが、ロータリー財団の補助金を活用し、ロータリー会員による大会運営及び会場監督のもとに一宮市在住の小学生を対象に青少年の育成及び地域貢献の奉仕活動の一環として8人制サッカー交流大会を行います。当日は地区からも出席をいただき競技者約180名、保護者約150名、ロータリー関係約50名、合計約380名の参加を予定し、沢山の市民が集まる事から、市民の方にロータリークラブの活動を知っていただく良い機会と考え地元の情報コミニティーチャンネルのCCCチャンネルの協力を頂き取材、映像を交え編集して頂き、広く一宮の市民の方にテレビ画面を通じて広報して行きたいと考えて、日夜汗をかいている今日此の頃であります。

幹事 尾関一之

●犬山RC(東尾張分区)

「子どもエコ壁新聞展」を開催



今年度、犬山RCは「環境」をテーマに各種事業を計画している。その一環として、社会奉仕委員会及び環境保全委員会が中心となって「子どもエコ壁新聞展」を企画した。

現在、地球環境は未曾有の気候変動によって、崩壊の一途をたどっていると言っても過言ではない。地球温暖化、砂漠化、生物多様性の危機など、地球規模でその現象が表れてきている。

そんな中、我々一人一人が環境への関心と理解を深め、積極的に地球にやさしい行動をすることによって、環境負荷の少ない社会へと転換できれば問題解決につながっていくと思われる。そのためには、環境教育、環境学習の推進が必要で、特に21世紀を担う子供たちに対する環境活動学習の場や機会の提供が重要になると思われ、その方法として、犬山市・扶桑町の小・中

学生を対象に「エコ壁新聞」を募集、展示し、子供と子供、子供とクラブ員が交流するセッションを行う。それが、この地域、ひいては地球環境の改善に貢献できる事業になると思われる。

会長 安田宗平

●名古屋みなとRC(西名古屋分区)

名古屋みなとロータリーアクトクラブ

「中川金魚祭り」に参加

名古屋みなとロータリークラブが提唱する名古屋みなとロータリーアクトクラブは、7月26日(土)、「魁☆みなと塾」祭りだー御輿だー皆集まれ!!と題して、名古屋市中川区尾頭橋の伝統あるお祭りである「中川金魚祭り」に参加しました。前年に続いての2回目の参加です。

この行事は招待行事として行われ、愛知県内の岡崎、豊橋、田原、一宮、江南、名古屋熱田、名古屋名城、豊田広域の各ロータリーアクトクラブ、遠くは長野県飯田RACの参加も得て、総勢65名の参加者となりました。

本年は、新しい御輿として「名古屋城本丸御殿御輿」が登場し、法被姿の男性アクターはこの御輿を担ぎ、女性アクターは大きな団扇や旗を振って応援しました。午後6時30分パレー



ド開始、各交差点ではパフォーマンスを繰り広げ、沿道の観衆からは大声援と共に水を掛けられて、びしょ濡れになったの大活躍でした。

パレード終了後、八幡温泉で入浴、その後2次会と夜遅くまで大いに盛り上がりました。地元地域と交流し、アクトが共に御輿を担ぐということでお互いの交流を深め、絆を深めた夜となりました。

みなとロータリーからは、管会長、木村幹事をはじめ7名が参加しました。

新世代・ロータリーアクト委員長 寺本善雄



●名古屋名駅RC(西名古屋分区)

OH!能、楽しい名古屋で留学生ら体験

日本伝統の能を外国人留学生らに紹介する催し「KNOWNOH BETER」(もっと能について知ろう)が7月13日、名古屋能楽堂で開かれ、中国やベトナム、ウズベキスタンなどの15人を中心に約30人が参加しました。この事業はロータリー財団の今年度の補助事業として、今年で7回目となる「名古屋名駅新能」を27日に控えて、名古屋名駅ロータリークラブが「外国の人たちに日本をより知ってほしい」と初めて企画しました。



えながら「能には写実的な動きはなく、無駄を省いた形で演じる」と紹介しました。

留学生は足袋を履いて舞台上がり、扇を手に形の練習。インドネシアから愛知工業大学院に留学している男性のイスマイルさんは、女役の唐織姿を体験して「生で見るのは初めてで楽しかった。また踊りたい」と笑顔で話しておりました。この様子はタワのテレビニュースでも取り上げられるなど、ロータリー活動が国際交流に大いに貢献していることを実感しました。

その後留学生たちは、名古屋名駅新能の会場設営にも参加し、薪能を鑑賞しました。

(7月15日付中日新聞より一部引用)

藤井 圓隆

●豊橋RC(東三河分区)

豊橋RCにはRCC(ロータリー地域社会共同隊)があります。豊橋市立の小中学校の生徒指導の先生方と連携して、青少年の健全育成を目指しています。一昔前の生徒指導の先生という「オイ、コラ」と悪童を叱りつける人というイメージが強かったのですが、今ではいじめ、不登校対策、日



本語の分からない外国籍の児童・生徒への対応等々とても広範囲の活動が要求されています。モンスターペアレントもいます。

お互いの理解を深めるため、テーマを決め、年間4回の合同委員会を開催する予定です。少子時代を迎え、子どもは兄弟げんかや野外遊びの体験が乏しくなってきました。ロータリアンと学校との関わりは中学生の職業体験学習の場の提供、子ども110番の家などがあります。

RCCを通じてロータリアンに小中学生の健全育成に関心を深めていただき、今後の活動を強化していきたいと考えています。

幹事 高須博久

●岡崎東RC(西三河分区)

カンボジアへの国際奉仕を計画

岡崎東RCは、本年度カンボジアにあるテイタゴイ村の小学校建設に対する、助成事業を計画いたしました。今回の事業推進においては、かつて本クラブにおいて受入をした、米山小学生の橋渡しにより実現しました。

6月の初旬、会長にもご参加いただきました。4名の会員で現地の視察に行ってきました。現地の小学校では、教室が三部屋しかなく、3年生までしか教育が受けられない現状です。4年生からは、農業の手伝いか家畜の世話ぐらいしか仕事がなく、想像していたよりはるかに劣悪な教育環境でありました。私たちは、首都プノンペンにおいて、現地出身の支援グループとの面談





を行いました。そこで彼らから、せめて6年生までの教育が受けられるように環境を整えたいとの願いを聞き、建設資金の一部を助成することを申し入れました。建設計画は、三年間で三つの部屋を建築し、教室が出来次第、政府が先生を派遣していただけるそうです。

本クラブでは、この支援事業を単年度で終了させず、継続事業として実施し、テイタゴイ村小学校の教育水準の向上と発展を見守っていきたいと思います。

国際奉仕委員長 三浦泰廣

催し

●豊橋ゴールデンRC(東三河分区)

ロマンあふれる八重山諸島の旅

「名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実一つ…」

私が田原市の大草海岸で椰子の実を拾ったのは小学生の頃。それ以来「南の島」「椰子の実」にとっても興味があり、今回初めて田原市観光協会が主催する「愛のココナッツメッセージPart 21」に参加させていただきました。

田原市(旧渥美町)観光協会では、昭



和63年から沖縄県の石垣島を「遠き島」に見立てて1600km離れた伊良湖岬に届く様、毎年約1000個の椰子の実を投流しています。

今年は6月7日に石垣港から2隻の船に分乗し、約1時間かけ石垣島の北西約30km沖合いから95個の椰子の実を黒潮に投流しました。当日は前夜の雷雨がうそのような晴天で穏やかな海に恵まれ、とても楽しい気分に参加することができました。投流した椰子の実は、みんな同じ方向に集団でゆっくりと進んでいきましたが、その光景を見ると、何か自分の子供たちを旅に出したような、何とも言えない感動がありました。

中村彰宏

同好会

●半田南RC(南尾張分区)

半田南RCゴルフ同好会では、毎月一回のゴルフ例会と、7・1月の懇親会、6月の最終例会は、ここ数年北海道遠征&取り切り戦を行っています。

今年も6月18〜19日「小樽カントリー倶楽部」「札幌ゴルフ倶楽部輪厚コース」へ行ってきました。

参加人数は6人と寂しかったですが、梅雨のない北海道雨に降られることなくゴルフを楽しんできました。



鈴木宏司

●一宮北RC(西尾張分区)

美術品鑑賞

尾西地方は、かつて繊維産業の盛んな頃から美術品の蒐集家が多い事知られ、川合玉堂や三岸節子などの巨匠



愛知県立芸術大学 准教授 岡田眞治先生を囲んで

を輩出した土地柄でもあります。

私共一宮北ロータリークラブでは親睦活動の一環として、美術品鑑賞を通じて会員相互の更なる親睦をはかる為、クラブ員の過半数が登録し同好会を発展させております。毎週近隣の美術館の展覧会情報資料を配布し、時には絵画・彫刻・工芸など各ジャンルの美術作家や美術館の学芸員を招いて専門的な卓話を拝聴したり歓談したり機会を設けております。

又、愛知県立芸術大学に於ける文化財模写事業の施設を見学させて頂いたり、朋友RC会員の協力を得て近隣の美術館へ出かけ、鑑賞会のおと郷土料理を楽しんだりしております。昨秋は紅葉の飛騨古川町を訪れ、市立美術館長と共に食通で知られた池波正太郎氏好みの料亭で舌鼓を打って参りました。

渡辺元男



●犬山RC(東尾張分区)

ゴルフ部会活動も「四つのテスト」を

2008年7月1日、犬山ロータリークラブでは、48代目・安田宗平会長のもとに各委員会がそれぞれの分野で、事業計画を立案しスタートしました。

その中で、毎例会には、四つのテストを唱和し、会員の意気の高揚に勤めています。

クラブ唯一の同好会、ゴルフ部会も「四つのテストを言行に照らして」・活動の一端を披露したいと思えます。

一 真実かどうか

普通一般の公私の競技にはプレーヤー自身が、レフリーの役を務めなければなりません。審判は自分です。ゴルフの誇るべき特色でしょう。その為には、先ずルールを知る必要があります。犬山ロータリークラブではルールブックを全同好会会員に配布、勉強会を毎コンペ終了後行っています。自分を厳しく、真実を確かめることが出来るように…

二 みんなに公平か

ゴルフはハンディ制です。同じレベルで、プレーが出来、誰でも優勝のチャンスがあります。みんな公平な立場で楽しんでいます。

三 好意と友情を深めるか

知れば、知るほど、これほど奥の深いスポーツは類が無いでしょう。犬山ロータリークラブの大先輩で、平工満氏は天寿100歳で逝去されましたが、88歳で米寿の祝いのコンペを盛大にされました。そして、96歳まで元気にゴルフを楽しまれました。地球4万キロ、電卓で叩くと、「軽く一周二本の足でクリヤ」していられるのではと思つ。



四 みんなのためになるかどうか

好意と友情を支えた、パートナーが居たことは言うまでもありません。病院通い・寝たきり老人・行き場のない老人ホーム等々、考えるとき、元気に芝生の上を歩く、健康には最高です。ゴルフをするから元気・元気だから出来る。よい循環になっています。医療費の無駄は勿論のこと、みんなの為になっています。

犬山RCゴルフ部会員は、四つのテストに照らして、頑張ります。

犬山RCゴルフ部長 木納隆義

●名古屋大須RC(西名古屋分区)

オオスシンガーズ

オオスシンガーズ結成して2年目、札幌で、全日本ロータリークラブ親睦



合唱祭に参加をしました。井原義則先生指導の下練習を重ねて合唱祭に臨みました。この札幌を経験したことが、シンガーズに自信と団結をもたらしました。そして今回オオスシンガーズは2008年6月7日に松江での「第14回全日本ロータリークラブ親睦合唱祭」に参加し、プラバホールで、「あの鐘を鳴らすのはあなた」と「女・女」の2曲を演奏しました。特に「女・女」はウィーンの作曲家のフランチ・レハールが作曲したオペレッタ「メリー・ウイドウ」の一場面を、演奏会用にアレンジしてオペレッタさながらに演奏しました。写真は最後のポーズを決めた瞬間です。この笑顔を見て頂ければ、オオスシンガーズのバイタリティーを感じて頂けると思います。次は、今年度2009年6月6日名古屋での合唱祭です。オオスシンガーズも参加、協力し合唱祭を盛り上げようと思っています。

オオスシンガーズ総務 鬼頭茂成

●名古屋名東RC(東名古屋分区)

趣味の会として平成17年2月に発足した、カメラ撮影勉強の会をご紹介します。須賀会長の指導のもとに現在の会員数は13名。



会の名前は「写楽会」として、ポジフィルムを使つての質の高い撮影を目標にして、これまでに北海道の釧路湿原周辺のタンチョウ撮影に3回、北海道美瑛や富良野、京都の紅葉と桜、琵琶湖東三山の紅葉や浜松の大風揚げ祭り等々、年に3回ほど撮影会を続けています。名古屋名東ロータリークラブ・写楽13景のポストカードも作



りました。撮影を終えたあとの各地地元で味わう、会員の親睦を深める食事会も楽しみであります。

写楽会会員 斉藤英夫

親睦

●名古屋みなとRC(西名古屋分區)

私ども、みなとロータリークラブは以前よりロータリー情報委員会の活動のひとつとして年8回の家庭集会をおこなっています。会員を8グループに分け、リーダー、サブリーダーを理事、役員、委員長、副委員長が務め、親睦とロータリー情報について、地区誌を参考にして、ロータリーの友情を深めることを目的としています。

全会員が参加し、入会3年以内の会



員は2回以上出席する事としています。本年度も、第一回目の集会が7月18日に行なわれました。

ベテラン会員から新人会員まで10名の参加で2時間ほど和気あいあいの雰囲気、少しアルコールも入りながら、楽しい会となりました。

例会ではなかなか話もできないことも、気楽にお互いの考えや、ロータリー活動への希望、想いなど話が盛り上がり、クラブの運営に例年大変参考となる催しです。

今後とも家族集会を通じて、会員諸氏のお考え、ご希望などの情報収集のツールとして継続していくつもりです。

会長 菅 栄

●名古屋丸の内RC(西名古屋分區)

「山鉾巡行」の京都を訪ねて

初夏の京都の風物詩、祇園祭、その中でも宵山、山鉾巡行は最高に盛り上がりを見せる場面です。

名古屋西南RCより名古屋丸の内RCにクラブ名称変更を行った最初の日に京都にて開催、多数の会員及びご家族の参加ですばらしい一日を過ごす事が出来ました。

名古屋と京都は新幹線で約40分弱

の距離に有る為、いつでも訪れる事が出来ると思いつつ、初めての祇園祭でした。

さて、祇園祭は平安時代初期に疫病の退散を祈願して行われたのが始まりで、先人が幾多の危機を乗り越え、伝統を守り続け、後世の人々に受け継がれ千百年を経ています。

私共ロータリアンも急速に変化しつつ有る社会環境の中、「奉仕の理想」を後世に受け継がれるべく、日々努力をしていかなければならないと思います。





2008～2009年度会長工レクト 後藤 徹

私とロータリー

●常滑RC(南尾張分区)

偽装を辞書で引きますと、事実とは



異なるのにあたかもそれが本当であるかの様に偽る事をいうと記されております。

最近この偽装問題が目に残り、実に嘆しい事です。賞味期限・産地・表示偽装等食料品関係が特に目立ちますが、それ以外にも偽装請負、耐震偽装、試験データのねつ造等あらゆる業界に渡っております。もちろんこうした事は法令違反であり、発覚すれば社会から厳しく非難され、場合によっては倒産に繋がる事が少なくありません。

こういった偽装は発覚するしないは別として、職業を通じて社会奉仕を謳うロータリアンとしては最も恥ずべき事ではないでしょうか。クラブの奉仕活動には勿論力を注がなくてはなりません、職業奉仕を謳うロータリアンとしては、嘘・偽りなどとは一線を引き、せめて真直な正直な道を歩みたいと私は考えます。

猪飼 盛雄

●知多RC(南尾張分区)

ロータリーの使命

「ロータリーをプロジェクトチームに」

近頃、組織を考える上で、「使命とは何か」を考えるようになった。それは、現代人の行動が使命に最も影響され

ていると考えるからだ。毎日仕事を頑張るのも、顧客や社会からの要請に応えたいという使命感こそが最も大きな原動力といえるからだ。そこで考える、ロータリーの使命とはなんだろう。

言うまでもなくロータリーの目的、使命は奉仕である。それは分かるのだが、もっと具体的かつ端的で誰もがイメージできるキーワードや理論、そしてビジョンが必要なのではないだろうか。今、ロータリーに必要なのは深く熱く語り合うこと、そしてそこから生まれるビジョンではないだろうか。

地域に根ざし世界に広がるロータリアンの生み出したビジョンを、地域と世界に提案しよう。そしてそのビジョンの実行の最前線に立ち続けよう。ロータリーは共同体ではない。目的と使命を持ったプロジェクトチームである。

林 秀人

●豊田RC(西三河中分区)

「ロータリーを考える月間」によせて

当表題について「藤原研一」地区クラブ奉仕委員長に例会の卓話の講師としてお願いし、お話を伺いする機会を得ましたので、報告致します。

「藤原研一」地区クラブ奉仕委員長



「ロータリーを考える月間」というのは、片山ガバナーが提唱されまして、頑張れよということにバトンが回ってきました。まずは、私のロータリーの歩みをお話させていただきます。

私は、27年前に名古屋北RCに入会致しました。初めの頃は、例会の100%出席だけを考えていたが、10年目に国際奉仕委員長を仰せつかりました折に、発展途上国の青少年のための資金援助を提案しまして実施するはこびとなりました。基金として海外の銀行にプールしておいたのですが、何者かに預金を下ろされ、3年たつたら基金がなくなっていました。このとき日本と外国とは違うので、気をつけなといけないということを実感しました。

16年目に会長を命じられ、一年間、緊張して努めさせて頂きましたが、6月の最終例会の時に、この緊張を持って続けるために「皆さん何か会を作ってもらえませんか」とお願い致しましたところ、クラブの皆さんから快く会を



作っていただきました。幅広く意見や考え方を集めたいために、入会年度ごとに委員を募り、「ビジョン21委員会」と名づけました。

この委員会でいろいろなことを検討しました。組織のこと、卓話の内容、国際奉仕のこと、定款の内容、20周年の事業はどうするか。アンケートも行いました。会費は適当か、事務局員の退職金問題、当クラブの会員としての誇りを自覚しているか、ロータリーに入る前と後ではロータリーに対する想いや日常的な生活・精神的なものはどうなったか。皆さんはだいたいロータリーに誇りを持っておられ、いろいろな業種の人と付き合いができてよかったですというアンケートの結果となりました。また、新人会員にロータリーはどういうところが教える必要があるか、会員数も徐々に増やしていこう、入会手続きが長すぎるから簡素化しよう、ロータリーアクトをしつかりやらないといけないなど意見ができました。

名古屋名北RCが魅力ある生き生きとした活力あるクラブを目指すために「ビジョン21委員会」が作られたわけで、3年間話し合ってきました。

・例会ごとに皆さんが活力とエネルギーを持って集まってきて、そこで語らい、そして、活力とエネルギーを

持ち帰ってほしい。

・日の光を借りて光る月ではなくて、小さくても自分から輝くようになってほしい。

というまとめとなりました。

日本のロータリーでCLPという言葉が云われて2年程になります。多くのクラブで検討され、採用されたクラブもあります。世界では70%のクラブが採用しています。日本での採用率の低さを考えると、海外ではかなり採用していることになりました。

CLPをするということが目的ではありません。前述しました「ビジョン21委員会」のような場で、自分たちのクラブをどうするか、自分たちのクラブでロータリー運動が活性化されるためにはどうすれば良いかを議論し、そして進めていくための手段がCLPです。ワンクラブ／ワンカラー、原点復帰、こういうことを踏まえた上で、これからどうあるべきかを皆さで討論して、取り組んでほしいと思います。

坂の上に見える雲は非常にきれいです。坂を上り始めて雲の中に入りますと、坂を上っているのか下っているのか、どこに向かっているのかわかりません。こういうときに必要なのがリーダーです。新しいメンバーが入っ

た時、一緒に考えて方向付けをして頂けるようなリーダーを育てないといけません。魅力あふれるロータリーではなくて、魅力あるロータリーにしないでほしい。奉仕したことは忘れても、受けた恩は絶対に忘れてはいけない。クラブ活性化のためには、魅力あるロータリー、そして持続可能な前進。これを実現するためには、根

気良く話をする。これがロータリーの活性化につながると思います。

皆さんはなぜロータリーに入りましたか。

ロータリーとはどういうところですか。

ロータリーで何をしますか。

ご清聴ありがとうございました。

（報告者 松井 勇

俳句

●一宮RC(西尾張分区)

梅雨空も役目終れば 日本晴れ

1年間の会長職を終えての心境を詠んで一句
直前会長 石井宏晃

川柳

●新城RC(東三河分区)

ここ日本 耳を疑う 津軽弁
マナーゲーム 穀物高騰 死神起く

米山奨学委員長 鳥居栄一

●豊田三好RC(西三河中分区)

慌て者すべって転んで喜んで

会長 村上ふと子



ガバナー
片山 じゅん

「点鐘二点」

ロータリーソング「我等の生業」の冒頭で次のように歌われます。

我等の生業さまざまなれど

集いて図る心は一つ

求むるところはやわらぎむつび

力むるところは向上奉仕

その求むるところの心の和らぎ親睦と、力むるところの向上奉仕との関係はどういう関係でしょうか。

この親睦と奉仕の関係は、車の左右両輪の関係？ どうも乗り心地が悪いようです。奉仕と親睦の関係は、左右の関係ではなく、前後の両輪の関係だでしょうか。奉仕は前輪で親睦は後輪。前輪はハンドルに直結し、後輪はエンジンに直結している。ハンドルに直結する前輪の奉仕はロータリーの行き先を決め、エンジンに直結する後輪の親睦は活力を生む。前輪は先導であり後輪は活力の源泉です。

奉仕はロータリーの目的。この目的によりロータリーはどこへでも行く。ロータリーの存在価値はこの目的により決まる。この目的がない限りロータリーの存在価値はないと言っている。

それに引換え、親睦自体はロータリーの目的ではあり得ない。奉仕と同程度の目的ではあり得ない。奉仕の心は親睦のなかから生まれるであろうし、奉仕の活動の中から親睦が生まれるであろう関係ではあるが、奉仕と親睦は同等・同質のものではない。親睦は大事な柱ではあるけれども目的ではない。本来、目的というのは厳しいもので楽しいものではない。



1995年(平成7年)春の家族会にて、片山ガバナー

い。その代わり成し遂げられた時の感動がある。楽しいものに達成感というものはない。もし達成感があったとすれば成し遂げたものは、既にその時に目的に昇格していったのです。ロータリーの親睦は目的には昇格できません。奉仕に至る必須の過程です。奉仕がロータリーの存在価値に関することであれば、親睦はロータリークラブ存立の基礎基盤です。

人間の諸機関も互いに有機的に協力しながら人間を健康に生かしています。互いに和せずバラバラで自主独立であれば拒絶反応が起きて「猛き人も遂には滅びぬ。」です。どんな団体でも親睦は存立の基盤です。強調するかどうかは程度の差に過ぎません。親睦はそういう位置づけが正解です。

そういう意味で親睦は奉仕に一步を譲ります。が重要な柱を支える重要な基礎であることには違いはありません。

今日も会長さんは点鐘を一点打たれたでしょうが、これは一点に限られません。何点打つても会長さんの専権の範囲です。私のクラブで二〇年程前に「ワンポイント型破り」の心意気で、点鐘二点を打たれた会長さんがおられました。非常に鮮烈な印象でした。私は会長年度の最初の例会から、点鐘を二点打つことにし一年間三点打ちました。一つは奉仕の鐘、二つ目は親睦の鐘、三つ目のものは何でしょう？ そうです。その奉仕・親睦の必須の前提である例会出席・行事参加です。

ロータリーの目的は奉仕であり、奉仕は親睦から生まれ、それは出席より始まる。出席なくして親睦なし、親睦なくして奉仕なし。